



校長室だより

令和6年度

6月11日

NO.15

何でも自分でできるようになるために…自立すること



さえずりさんの「読み聞かせ」



栄養教諭の「栄養教室」



岡崎市には数名の栄養教諭さんがいます。今年も六日に、男川小学校の松井先生をお呼びして、「残さず食べるとなぜいいのか」の授業をもらいました。松井先生は市の給食センターにも行つて給食のメニューも考えています。昨年も授業をもらったおかげで、三、四年の子は、食べ物で「エネルギー」になるもの、「からだ」になるもの、からだの「ちようし」を整えるものに分けること、バランスよく食べるのが大事であることを、よく分かっていました。その後の栄養分けゲームにも楽しく取り組み、知識を深めました。

思いかえずと自分も、昔はよく「残さず食べなさい」と親に叱られてきました。栄養の三要素などよく分かっていませんでしたが、今、好き嫌いなく食べられるのは、家庭の「食育」のおかげかもしれません。「食」は健康や自分の生活とも深いつながりがあり、今では「食育」や「給食」の大切さが学校でも説かれるようになりました。将来にわたって、食べることの大切さを知り、自分の力で考え、食べられるようにしていくこと、それが自立した姿と言えるでしょう。

読書も一人で自立して行う学びと言えます。そして「読み聞かせ」は、子供たちの読書活動の入口と言われます。読み聞かせ中、秦梨っ子は集中してお話を聞いています。こうした読み聞かせを通して、子供たちは本の楽しさを知り、想像力や集中力、読解力や共感力など様々な力を手に入れることができるようになるのだと、楽しみにしています。

小学校教育の目的の一つは、自立した子を育てることです。給食や掃除、放課も子供の自立につながっています。様々なことに、人に言われなくても自分からできる、そんな秦梨っ子がいっぱいになるといいと思います。

【5日のさえずりさんの読み聞かせ】 1,2年「ありとすいか」(たむらしげる：ポプラ社)、「うごきません」(大塚健太他：PIE)、「にじ」(新沢としひこ：アスク・ジュック)、3,4年「はなちゃんのみそ汁」(安武信吾：講談社)、「めでたしめでたしからはじまる絵本」(デビッド・ラズエル：あすなろ書房)、「なきすぎではいけない」(内田麟太郎：岩崎書店)
5,6年「シニガミさん」(宮西達也：えほんの社)、「木のサリマン しゅっちょうはつらいよ」(富安陽子：福音館)